



左海民俗

第174号 令和7(2025)年1月発行 ©堺民俗会 Since 1947



当麻寺のお練り

下谷佐吉氏遺稿 ③

中将姫の旧跡

下谷 佐吉

中将姫(747~775)は右大臣藤原豊成(藤原鎌足の子孫)の息女で伝説上の人物である。5才の時、母は死亡し、継母にいじめられ、その配下に何度も殺されそうになる。その配下は姫を殺せず、姫を各地でかくまう立場をとる。

17才の時、当麻寺で出家し、曼荼羅(国宝)を織りあげ、29才で悲哀な生涯を閉じた。姫の伝説は各地に残り、能や浄瑠璃、謡曲などに作られている。

1、当麻寺のお練り

かなり前の5月10日に当麻寺のお練りを見に行ったことがある。長い架設の来迎橋で16時からお練り供養が始まった。

1 回目はお坊さんが先導して中将姫を乗せた駕籠が出てくる。2 回目には折り返して来たお坊さんの行列で散華(さんげ)という札のようなものをまき散らす。3 回目は着物を着た子どもと母・祖母などが参列する。4 回目は白面、黄金面を付けた菩薩姿の人が登場する。途中で面がはずれるハプニングもあった。阿弥陀如来像を持った菩薩役は左右に円を描くようにして踊って行く。伴奏の楽器は横笛、笙、シンバル、鼓、琵琶、琴、太鼓等だった。

最期は中将姫を諸菩薩が迎えに行く。阿弥陀如来像化した中将姫を西方浄土・極楽の世界へ導いて行く道筋のお練りだと理解した。

2、宇陀市の青蓮寺

宇賀神社からの林道終点に日張山青蓮寺がある。ここは中将姫が隠れ住んだ尼寺で境内は広く、よく整備され、シャクナゲ、サクラソウなどが植えられていた。案内板に哀れにもゆかしい中将姫の物語が伝えられている。いかにも隠れ住める山奥の一軒家だった。

3、橋本市の恋し野の里

JR橋本駅から紀ノ川の恋野橋を渡れば恋し野の里である。その地名は中将姫が「母様恋し 恋し野の 恋野の里や 雲雀山」と歌ったことからつけられている。

【福王寺】

この寺は中将姫が恋し野に建てた三つの庵を合併して建立され、姫の位牌を安置している。

【糸の掛橋】

姫が去年(こぞ)川を渡るのに不便なために架けた橋とされる。その橋は昭和初期まで県道だった。近くに地藏菩薩、阿闍(あしゆく)、地藏菩薩が祀られている。

【中将が森】

恋野地区公民館から農作業服を着た高齢の男性が軽四で、中将が森にある資料館を案内してくれた。公民館の女性2人も初めてだといってついてきていた。

彼は「ここは中将姫がお世話になった人々への感謝を祈願して観音堂を建てた場所です。この小さい観音堂は父親たちが修復したものです。この向こうに蓮池があります。今は公園になっています」という。資料館に入る。彼と同年齢とわかり、お互いに気軽に話すことができた。彼は「隣の五条市の栄山寺は姫に縁のある寺です。小学校は恋し野にあったが、中学校へは紀ノ川を渡し船に乗って通っていた。吉野方面から筏を組んで材木を流しているのをよく見ました。」と話が弾んだ。

【中将倉】

狩にきた父と隠れ住む姫との涙